

ASICS 通信

57th Term

2010.4.1—2010.9.30

sound mind sound body
流レルノハ、汗ダケジャナイ。

asics

証券コード：7936

— アシックスの軸足 — 社長メッセージ —

グローバル展開をさらに加速し、 持続的な成長と企業価値の向上を目指します。

海外事業の成長により 増収増益を達成

第57期の第2四半期累計期間（2010年4月1日から9月30日まで）の連結業績は、売上高1,164億円、営業利益122億円、四半期純利益55億円と前年同期間比で増収増益となりました。海外では、欧米を中心とした景気下振れ懸念も見られるなど厳しい状況が続きましたが、健康志向によるランニング、マラソン人気の高まりを追い風に、アメリカ、ヨーロッパ、アジア・パシフィックの各地域とも現地通貨ベースで2桁成長を実現しました。一方、国内では依然として消費マインドに改善が見られず、デフレ傾向とあいまって厳しい状況が続き、連結業績を押し下げる要因となりました。

当社製品の優秀性を伝える 自主管理売場の拡大と ブランド価値のさらなる向上による グローバル展開

海外事業が好調に推移している最大の要因は、当社の製品力の高さがあげられます。当社は、スポーツ工学研究所とデザインセンターが連携し、機能性と視覚的な美しさを高いレベルで融合させており、製品の優秀性では他社の追随を許さないと自負しています。アシックス製品の優秀性や魅力をお客様に確実に伝えられる直営店やフランチャイズ店、ショップインショップなど自主的に管理できる売場の拡大を促進します。

また、当社が今後も成長し続けるためには、さらなるブランド価値の向上が必須

です。アシックス製品の機能性の高さを訴求し、ブランド価値を向上させるため、今後も積極的に市民マラソンのサポートに努めてまいります。さらに、2008年からスタートした世界統一ビジュアルによる



代表取締役社長 尾山 基

ブランド広告は、マラソンにあまり積極的でなかったランナーの方々への認知度向上につながりました。これらに加え、ランニング用品専門店「アシックスストア」を核としたランナーへのサービスを充実し、ランニングにおけるトップブランドの地位をさらに強固なものにしていきます。

海外事業に関しては、アメリカでは景気の減速が懸念されますが、引き続き2桁成長を期待しています。ヨーロッパでは、低迷していたフランスでも好転の兆しが見え始めました。また、ロシアでは、2010年9月に開催されたレスリング世界選手権とモスクワマラソンのスポンサーとして販売促進活動を行ったことから、今後のブランド浸透が期待できます。

低迷が続く国内事業も同様に、自主的に管理できる売場の拡大が鍵と考え、新規チャネルの開拓を含めた販売体制の再編に取り組んでいきます。

市場環境の変化に的確に対応し、様々な改革を推進

近年、アウトドアを通じた健康維持のニーズも高まっているため、2010年8月にスウェーデンのアウトドア用品大手のホグロフス社の株式を取得し、完全子会社としました。ホグロフス社の経営資源を有効に活用し、事業分野と販売地域の拡大に努めていきます。

また、名実ともにグローバル企業として飛躍するためには、意思決定や組織体制など経営のプラットフォームの変革が必要です。その一環として、ヨーロッパと



アメリカの現地法人において、現地のスポーツマーケットで豊富な経験を持つ経営幹部を招き、新たな体制でスタートしています。

新中期経営計画「アシックス・グロース・プラン（AGP）2015」を発表

2006年4月より、グローバル企業としての飛躍を目指し「アシックス・チャレンジ・プラン（ACP）」に取り組んでまいりました。海外事業が着実に成長していることに加え、当社の海外でのブランド認知度が大幅に向上していることから、強みを持つランニング事業を中心に経営資源を集中しつつ、さらなる成長に挑戦したいと考えています。このため、2011年4月からの5ヵ年計画「アシックス・グロース・プラン（AGP）2015」を策定し、第62期

（2016年3月期）の連結売上高4,000億円（現時点の為替レートに基づく円換算額）を目標とすることとしました。

AGP2015では、さらなる事業拡大のために、お客様との直接の接点である販売部門だけでなくグループの他部門も含めて、ひとつのチームとしてお客様起点の活動を徹底し、グローバルな組織のもとで世界各地のお客様ニーズに対応すると同時に、革新的な価値も提供していきます。

景気低迷の長期化懸念が強まっていますが、世界中の人々のライフスタイルに様々なスポーツが定着してきています。国内では、東京マラソンから始まったランニングブームは一過性のものでなく、2011年2月に開催される第5回東京マラソンに過去最高の30万名を越す応募がありました。海外においても、欧米だけでなく、東南アジアでもランニング人口が急速に増加しています。また、登山などアウトドアのニーズも世界的に拡大しています。

このようなお客様のニーズや市場の変化に対応しながらグローバル展開を加速し、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月

代表取締役社長

尾山 基



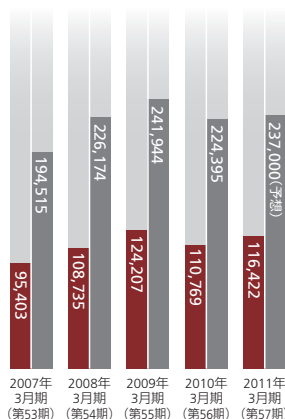
グローバルマラソンキャンペーン（モスクワマラソン）



レスリング世界選手権モスクワ大会

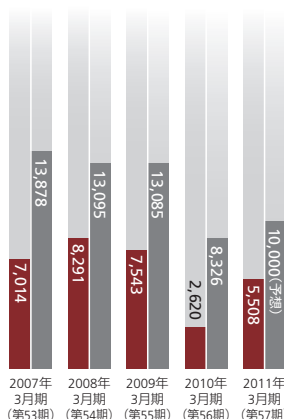
売上高

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



当期 (四半期) 純利益

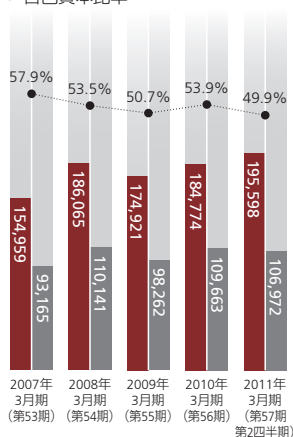
■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 百万円)



総資産・純資産・自己資本比率

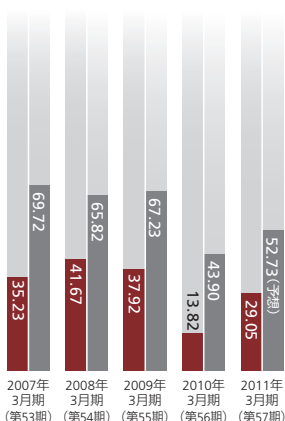
■ 総資産 ■ 純資産 (単位: 百万円)

●●● 自己資本比率



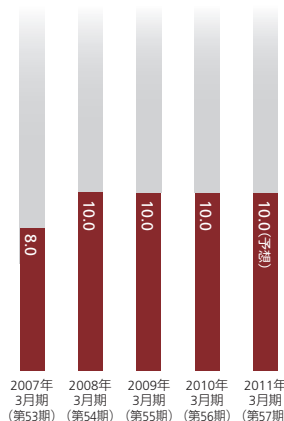
1株当たり当期 (四半期) 純利益

■ 第2四半期 ■ 通期 (単位: 円)



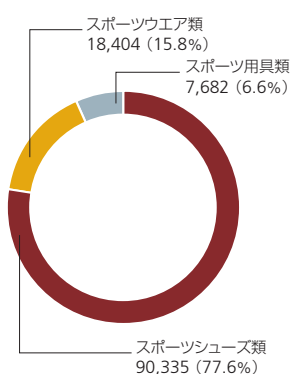
1株当たり配当金

(単位: 円)



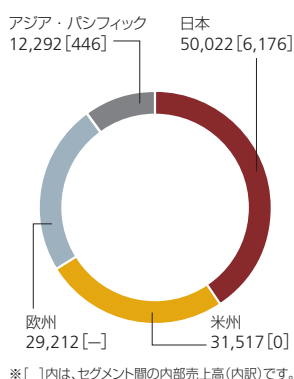
製品別売上高

(単位: 百万円)



報告セグメント別売上高

(単位: 百万円)



通期連結業績予想

(単位: 百万円)

	2010年3月期 第56期 (実績)	2011年3月期 第57期 (予想)	前期比増減
売上高	224,395	237,000	5.6%
営業利益	17,582	20,500	16.6%
経常利益	18,230	18,000	△1.3%
当期純利益	8,326	10,000	20.1%
1株当たり当期純利益 (単位: 円)	43.90	52.73	—

POINT 解説

売上高

当第2四半期連結累計期間における売上高は1,164億2千2百万円と前年同期間比5.1%の増収でした。このうち国内売上高は、主にスポーツスタイルシューズおよびアスレチックウェアが低調であったため、414億4千5百万円と前年同期間比7.3%の減収でした。海外売上高は、欧州、米州およびオーストラリアでランニングシューズが好調に推移しましたので、749億7千7百万円と前年同期間比13.5%の増収となりました。

営業利益・経常利益・四半期純利益

損益につきましては、主として海外における売上高の増加および原価率の改善により、営業利益は122億4千5百万円と前年同期間比29.6%の増益となりました。経常利益は為替差損20億5千6百万円 (個別業績における影響額24億7千5百万円) を計上しましたが、104億1千1百万円と前年同期間比21.1%の増益、四半期純利益は55億8百万円となり、前年同期間に過年度法人税等を計上したことにより前年同期間比110.2%の増益となりました。

総資産・純資産

総資産1,955億9千8百万円 (前年度末比5.9%増)、純資産の部合計1,069億7千2百万円 (前年度末比2.5%減) となりました。



ウォーキングシューズ
「GIRO」シリーズ

美しい姿勢で歩ける機能を設けた
ヒール高7.0cmのポンプス



「GEL-NIMBUS 12」

グローバルで展開している
クッションカテゴリーの
代表的なランニングシューズ
日本展開カラー



「CALIFORNIA 78 OG」
(オニツカタイガー)

カラーも含めグローバルで
展開しているスニーカー
1978年に発売された
ジョギングシューズがデザインベース



「ランニングwind
パーカージャケット」

街着としても活用できる
機能性とデザイン性を高めた
ランニング用パーカージャケット



「Pre-Galaxy 4 PS」

子ども向けの機能特徴を持った
ランニングシューズ
海外市場で展開



ホグロフス社の製品

さらなる成長のため、グローバル規模で事業拡大

当社グループは、グローバル規模でのさらなる成長に向け、販売地域の拡大と販売力の強化に努めるとともに、グループ内の既存事業の強化・補完のために、他社とのアライアンス、M&Aによる事業拡大を行っています。

その一環として、当社は、2010年8月にスウェーデンに本社を置き、アウトドア用品事業を営む HAGLÖFS HOLDING AB (ホグロフス社) の全株式を取得し、連結子会社としました。近年、アウトドアを通じた健康維持に対するニーズが高まり、また、ファッションとしてのアウトドア用品の需要が拡大しています。ユーザーに対する姿勢や機能性の高いものづくりへのこだわりなど、非常に付加価値の高いアウトドア用品を提供する企業として評価されているホグロフス社の事業を通じて、こうした需要に応えうる充実したアウトドア用品を提供していきます。

また、当社の子会社であるアシックスアメリカコーポレーションは、カナダ市場において当社ブランド製品の販売を行う代理店の全株式を取得し、連結子会社としました。これにより、北米地域におけるさらなる売上拡大を図ります。

世界のランニングイベントを積極支援

コア事業であるランニング事業を中心としたグローバル展開をさらに強化するため、当社はブランド認知度の向上を図っています。世界のランニングイベントの積極的な支援もその一環であり、ニューヨークシティマラソン、ゴールドコーストマラソン、パリマラソン、ムンバイマラソン、東京マラソンなど、世界で約60の国際マラソン大会を支援しています。2011年5月に開催予定のストックホルムマラソンではタイトルスポンサーとなり、初めて「アシックス」の名を冠した大会となります。

今後もこれらの大会を通じて、ランニング文化の発展をサポートするとともに、世界のランナーとコミュニケーションを充実させ、ブランド価値向上を図ります。



東京マラソン2010 ©東京マラソン事務局

「オニツカタイガー」のコミュニケーションビジュアルがカンヌ国際広告祭で高評価

スポーツファッションブランド「オニツカタイガー」のコミュニケーションビジュアル*が、第57回カンヌ国際広告祭において、デザイン部門の金賞を受賞しました。受賞したのは、スニーカーをモチーフにした「TANSU (たんす) シューズ」で、当社が創業227年を迎える新潟の桐たんす店に依頼して作製したものです。引き出しを開けると「オニツカタイガー」の足跡がわかる過去の商品やプロモーションツールが見られるようになっています。高い技術、伝統と遊び心をあわせ持った点が評価され、今回の受賞につながったものと考えています。

※ シーズン毎のブランドコンセプトを表現するビジュアル



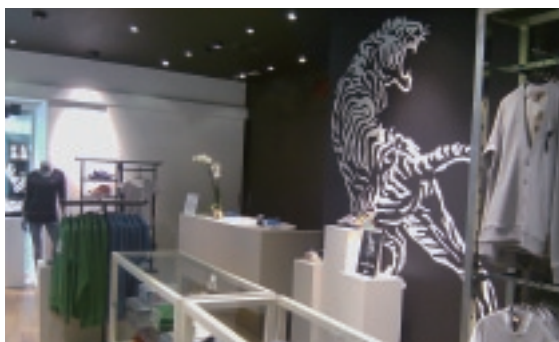
スニーカーをモチーフにした「TANSU シューズ」

スペイン初の「オニツカタイガー」直営店をマドリードにオープン

スペインにおける旗艦店と位置づける「オニツカタイガーマドリード」を2010年8月にオープンしました。「オニツカタイガーマドリード」は、マドリードでも流行に敏感なファッションストリートとして知られるフエンカラル通りに位置しており、ファッション感度の高いお客様や国内外からの観光客が多く来店しています。「オニツカタイガー」ブランドの認知度向上を図ると同時に、市場のニーズを素早く察知し商品開発につなげるためのフィードバックも積極的に行っていきます。



オニツカタイガーマドリード外観



店内の様子

会社の概況 (2010年9月30日現在)

会社概要

社名	株式会社アシックス
創業	昭和24年9月1日
資本金	239億7千2百万円
事業内容	各種スポーツ用品および 各種レジャー用品の製造および販売
本社所在地	〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL:(078)303-2231 FAX:(078)303-2241
従業員数	5,441名(連結)

役員

代表取締役会長	和田 清 美	橋 本 幸 亮
代表取締役社長	尾 山 基	長 谷 義 昭
取締役 常務執行役員	清 水 裕一郎 池 崎 俊 郎	稗 田 甲 二 土 方 政 雄
取締役執行役員	織 田 信 雄 千 原 芳 雄 松 尾 和 人 佐 野 俊 之	平 本 博 渡 辺 博 司 黒 崎 鉄 雄 西 野 修 一
執行役員 (五十音順)	池 田 新 井 上 忠 史 加 藤 克 巳	常勤社外監査役 田 中 秀 明 社外監査役 山 上 和 則 三 原 秀 章

株式の状況 (2010年9月30日現在)

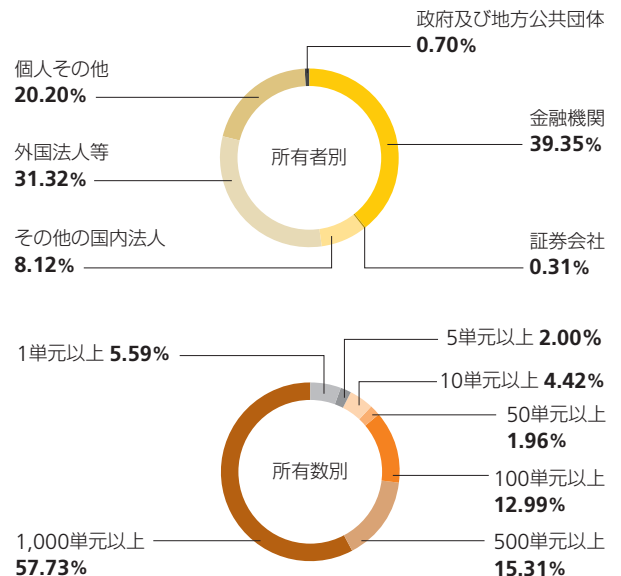
株式状況

発行可能株式総数	790,000,000 株
発行済株式の総数	199,962,991 株 (うち自己株式 10,341,063 株)
株主数	12,655 名

大株主 (上位 10 名)

注) 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,311	5.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,226	4.3
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	7,858	4.1
株式会社三井住友銀行	6,607	3.5
日本生命保険相互会社	6,309	3.3
株式会社みずほコーポレート銀行	5,568	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,161	2.7
株式会社みなと銀行	4,208	2.2
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,999	1.6
サジヤツブ	2,967	1.6



株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日
定時株主総会	毎年6月中
単元株式数	1,000株
公告方法	下記のホームページに掲載いたします。 http://www.asics.co.jp/ir/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート(英文)など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ(<http://www.asics.co.jp/ir/>)に掲載しています。

株主名簿管理人および 特別口座 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部
事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座に関する お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 全国本支店

※ 住所変更等の事務手続きは、お取引の証券会社等(口座管理機関)にてお手続きください。

